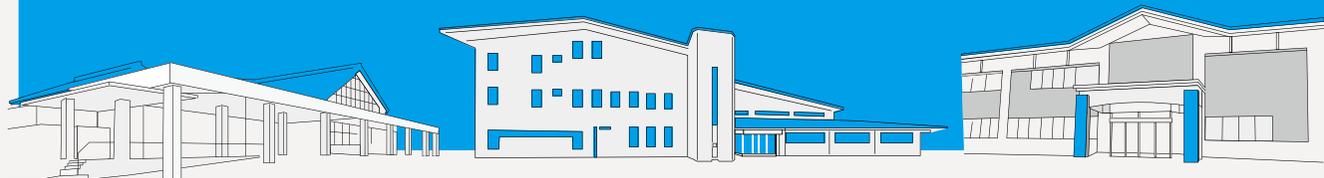




あゆみ

本と人、人と人とを

東近江市立図書館
20年のあゆみ
2005-2025



はじめに

- 01 目次
- 02 **第1章 これまでの滋賀県の図書館を振り返る**
- 03 合併以前の市内の図書館
- 08 東近江市立図書館の誕生
- 09 私たち図書館職員が大切にしてきたこと
- 10 **第2章 東近江市立図書館の取組①**
- 11 すべての人に本を届ける
- 11 市内全域へサービスを届ける移動図書館
- 14 いきいき本の元気便 健康プラス
- 15 子どもたちと本をつなぐ
- 20 誰もが読書の喜びを感じられる図書館を目指して
- 21 読書バリアフリーを進めるための取組
- 22 **第3章 東近江市立図書館の取組②**
- 22 互いにつながることで広がる図書館サービス
- 26 図書館とつながる 組織・人々
- 28 議会図書室・仕事に役立つ図書館だより
- 29 **第4章 東近江市立図書館の取組③**
- 30 すべての人がいきいき元気に
- 30 能登川図書館いきいきコーナー
- 32 図書館から外へ
- 33 『筏川』・地域情報冊子『そこら』
- 34 図書館利用者みんなの声
- 36 東近江市図書館協議会・東近江市図書館協議会会長の言葉
- 37 教育長の言葉「東近江市立図書館 20年のあゆみに寄せて」
- 38 年表（主なできごと）
- 40 年表（主な企画事業）
- 46 東近江市立図書館の統計
- 48 職員の声
- 私たち図書館司書はこんな図書館でありたいと願っています
- 図書館の自由に関する宣言

20年前、7つの市町が一つの市となり、東近江市が誕生しました。

東近江市立図書館は、市民の皆さんの日々の暮らし、そしてそれが連なる人生の歩みを支えるため、本や資料を手渡すことに全力を尽くし、この20年、市民の皆さんとともに歩みを進めてきました。

すべての市民の皆さんの「生きる」ことを支える図書館でありたい。今までも、そしてこれからもこの思いが変わることとはありません。

合併20年の節目である今、この冊子のページをめくり、今日までの私たちの取組の積み重ね、そして未来を見据えて弛みなく挑戦し続ける東近江市立図書館の「これから」を感じてください。



これまでの 滋賀県の図書館を 振り返る

『図書館県・滋賀』と言われるほど全国有数の活動実績を誇る滋賀県の図書館。市町村図書館設置率は100%、県民一人当たりの貸出冊数は東京都に次いで全国第2位（令和6年現在）です。

しかし、昭和25年に図書館法が制定された後、昭和40年代に全国各地で公立図書館が設置され発展していった当時、滋賀県下の公立図書館は県立図書館のほかには市立1館、町立1館のみで、「図書館不毛の地」と言われていました。

発展のきっかけとなったのは昭和56年度から実施された県の図書館振興策。施設整備補助と合わせ図書購入費、移動図書館車の購入

費も補助する制度でした。先頭に

立ったのは、昭和55年に開設された新県立図書館に館長として招聘しょうへいされた前川恒雄まえがわつねお氏です。県民にとつ

て身近な市町村にこそ図書館が必要であり、その活動をバックアップすることが県立図書館の役割であると明確にし、熱意をもって未

設置自治体へはたらきかけました。それに呼応した自治体は、新しい

図書館のあり方や専門職館長の重要性を認識し、図書館づくりの機運が高まりました。その結果、準備段階から司書資格と実務経験のある館長予定者が招聘され、高い

レベルのサービスを行う図書館がいくつも誕生していきました。



前川恒雄氏は、初代日野市立図書館長、滋賀県立図書館長などを歴任。日本の図書館界の発展に多大な貢献をされました。

合併以前の 市内の図書館

7館からなる東近江市立図書館が形づくられたきっかけは、昭和60年、八日市金屋の地に新館をオープンした八日市市立図書館の、他に類を見ない先進的な活動です。大阪府立中之島図書館から招聘された司書資格を有する経験豊富な専門職館長のもと、「いい街づくり、

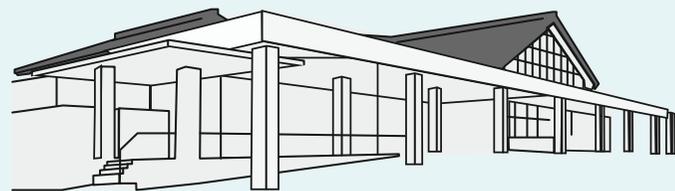
役立つ図書館」を合言葉に、貸出をサービ

スの基本に据えた徹底した資料提供により、八日市市立図書館は全国的にも注目は市外住民への貸出を行っていたこともあり「自分のまちにも図書館がほしい」と周辺の町で図書館設置を求める声が高まっていきました。昭和62年に愛東町立愛東図書サロン、

平成元年には五個荘町立図書館が開館。それに続き平成5年に湖東町立図書館、平成9年に能登川町立図書館、平成12年には永源寺町立図書館と、八日市市の周りの町に相次いで個性豊かな図書館が誕生しました。

八日市図書館の新館整備時と同様に、湖東、能登川、永源寺の各図書館は計画段階から専門職館長を準備室長として招聘し、用地検討から建物や家具の設計、本の購入など、時間をかけ綿密に準備を進め、全国の同人口規模自治体の中でも高水準のサービスを提供。待ちわびていた地域の人々の活発な図書館利用に支えられ、どの図書館も着実に貸出実績を伸ばすだけでなく、集会・行事にも力を入れ、特徴のある魅力的な図書館サービスを実施していきました。このことは今日の7館体制による質の高い図書館サービス実現の礎となつていきます。

永源寺図書館



1990
2000

平成 8年 2月
9年 4月
10年 5月
12年 10月
12年 11月
13年 5月
16年 5月

永源寺町立図書館基本構想策定
永源寺町立図書館準備室開室
室長として巽照子氏を招聘
公用車に本を積み町内を巡回
永源寺町立図書館基本計画策定
永源寺町立図書館開館
移動図書館「やまびこ号」運行開始
図書館ボランティア講座開催
第1回 永源寺ものづくり展開催
(以降毎年開催)



開館時の永源寺図書館

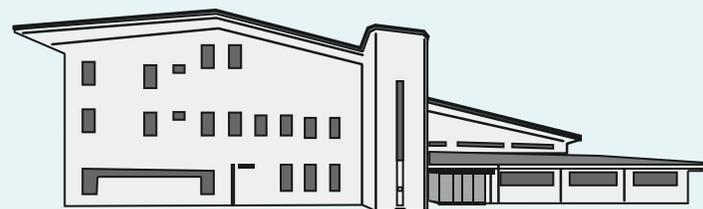


平成13年頃 窓の外に遊具や旧永源寺公民館が見えます



永源寺は政所茶の茶所であることから、館内に茶室を設け、子どもの茶道教室を開催。本物に触れる場でありたいとの願いから、多くの音楽会や展覧会などの事業を行いました。

八日市図書館



1980
1990
合併前
2000 後

昭和 56年
58年 4月
12月
59年 4月
60年 7月
61年 5月
平成 元年 4月
2年 6月
4年 4月
6年 2月
7年 7月
17年 4月
22年 2月

八日市清水町に市立図書館創設
社会教育課が新館開設準備室を設置
「八日市市の図書館計画について」(日本図書館協会作成)完成
開設準備室室長として大阪府立中之島図書館より西田博志氏を招聘
八日市市立図書館開館
住民と図書館が共同で企画・編集する街づくり情報誌「筏川」No. 1発行
貸出冊数が無制限に(従来は1人5冊以内)
移動図書館サービス開始
通勤通学者を除く市外住民への貸出停止※
人と自然を考える会 発足
開館10周年「風倒木」オープン
火曜日の開館を開始
「くらしを守る」就労支援・生活支援等の資料コーナーの設置



「ようかいち通信」
西田博志/著

※開館当初は市外住民へも貸出を行っていましたが、予想以上に市外住民の利用が多く、八日市民民へのサービス低下の恐れがあったため平成4年に貸出停止の決断をしました。結果的には他市町でも八日市のような図書館を求める声が住民から多く上がったことで、周辺地域の図書館整備に大きな影響を与えました。

五個荘図書館



移転前の五個荘図書館のカウンター周り



移転前の五個荘図書館外観

1980
1990
2000
2010
合併前
後

平成 元年 7月
11年 6月
12年 11月
14年 2月
14年 11月
22年
26年 10月

五個荘町立図書館開館(五個荘町竜田)
電話回線を通じ小中学校からの図書検索を可能に
角野栄子講演会(東近江子ども読書推進会議主催)
安土町・五個荘町・能登川町3町で図書館の共同利用開始(平成15年3月まで)
貸出冊数150万冊達成
地域有志による図書館応援団「五図ん会(ごっとんかい)」発足(協働事業開催など令和4年まで活動)
学校図書館と公共図書館の機能を併せ持つ図書館として五個荘中学校敷地内に移転(五個荘小幡町)



中学校昼休みの貸出の様子



開館当日の館内



移動図書館



風倒木(本のリサイクルショップぶつくる・喫茶などがある市民が集う憩いのコーナー)

TOPIC

雑誌の特集で、当時の八日市・湖東・能登川図書館が、すぐれたサービスを行う『本物の図書館』、「日本の公共図書館十傑」に選ばれました。

検証! 図書館のあるべき姿とは? 「図書館にはDNAが必要なのです」菅原峻(雑誌『毎日グラフ AMUSE』平成12年1月毎日新聞社発行)



開設準備室

植えられたばかりの庭の木々



能登川図書館

初代館長・才津原哲弘氏が雑誌で紹介した「自殺したくなったら、図書館へ行こう」という言葉が話題になりました。



「限りあるいのちに向きあう図書館を」(図書館雑誌 2009年5月号)
「自殺したくなったら、図書館に行こう」虫賀宗博(「世界」2005年8月号)

- 平成 7年 4月 能登川町総合文化情報センター開設準備室発足 室長として才津原哲弘氏を招聘
- 9年 11月 能登川町立図書館開館
- 10年 7月 移動図書館車「ブックバス」運行開始
- 13年 8月 貸出冊数 100万冊突破
- 14年 12月 詩人・谷川俊太郎、賢作父子による 詩とピアノの夕べ開催
- 14年 「第8回公共建築賞」優秀賞受賞 (徳岡昌克建築設計事務所)
- 15年 6月 “おひざでだっこのおはなし会” 開始
- 16年 5月 宮沢賢治学会 地方セミナー (井上ひさし・中村哲の対談)
- 11月 柳田邦男講演会開催
- 17年 6月 利用者人数 50万人突破



愛東図書館



移転前の愛東図書館外観 (現滋賀県平和祈念館の地域交流室)



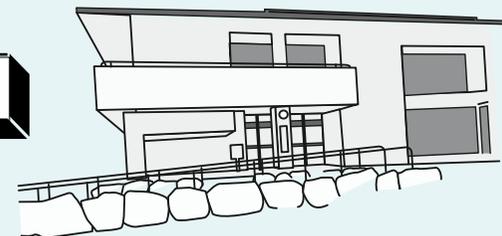
旧愛東町図書サロンの館内

- 昭和 62年 6月 愛東町立愛東図書サロンとして開館 (愛東町役場と併設の愛東町自治センターとの複合施設)
- 63年 7月 富田林市より譲渡された移動図書館車での運行開始
- 平成 2年 8月 貸出冊数 5万冊突破
- 21年 9月 児童書を集め子ども向けサービスに注力
- 23年 8月 愛東コミュニティセンター内に移転



「マーガレット号」

昭和 63年～平成 6年 富田林市から譲り受け、草の根文庫や幼稚園など愛東町内を巡回しました。



蒲生図書館



旧蒲生公民館図書室



蒲生図書館開館

- 平成 3年 7月 蒲生あかね文化センター内に蒲生公民館図書室開室
- 8年 9月 八日市市立図書館で旧蒲生町民の利用が可能に
- 13年 3月 「蒲生図書館調査研究委員会」より 「調査研究答申書」などを町長へ提出
- 18年 11月 「市立図書館のあり方検討委員会」設置
- 19年 5月 東近江市蒲生図書館整備プロジェクトチーム発足 市民懇談会実施 (3回)
- 20年 4月 蒲生図書館開設準備室開室 (司書 2名)
- 20年 11月 蒲生図書館 開館

市内最後にできた蒲生地区待望の図書館。オープン前には市民と図書館司書が車座になって、これからの図書館について語り合いました。



湖東図書館

- 平成 元年 7月 「ふるさと創生事業」住民投票により図書館の建設が選ばれる
- 2年 4月 図書館開設準備室設置。室長として澤谷とし子氏を招聘 図書館の用地選定から奔走
- 4年 4月 絵本作家・馬場のぼる画の「ねこ」の利用カード誕生
- 5年 3月 湖東町立図書館開館
- 6年 10月 「第10回日本図書館協会建築賞優秀賞」受賞 (鬼頭梓建築設計事務所)
- 9年 3月 人口1万人未満の町村において市区町村図書館の個人貸出数(112千点)と蔵書冊数(68千冊)で全国第2位となる
- 15年 4月 毎週木曜日 20時まで夜間開館開始
- 20年 8月 沢島文庫開設※
- 26年 6月 月曜日の開館を開始

※湖東町出身の映画監督である故沢島忠さんから資料の寄贈があり、沢島文庫を開設しました。

「ふるさと創生事業」住民投票により図書館の建設が選ばれる

図書館開設準備室設置。室長として澤谷とし子氏を招聘 図書館の用地選定から奔走

絵本作家・馬場のぼる画の「ねこ」の利用カード誕生

湖東町立図書館開館

「第10回日本図書館協会建築賞優秀賞」受賞 (鬼頭梓建築設計事務所)

人口1万人未満の町村において市区町村図書館の個人貸出数(112千点)と蔵書冊数(68千冊)で全国第2位となる

毎週木曜日 20時まで夜間開館開始

沢島文庫開設※

月曜日の開館を開始



開館日の行列と貸出の様子



美しい木造建築が評価され、数々の建築賞を受賞しました。

東近江市立図書館の誕生

平成17年と平成18年の二度の市町合併を経て、旧市町にあった6つの図書館が一つになりました。そして唯一の図書館がなかった蒲生地域に平成20年、待望の図書館が開館。東近江市立図書館は7館体制になりました。

職員の心構えとして5つの目標・9つの指針を策定し、サービス面では合併と同時に、八日市図書館がそれまで休館日であった火曜日を開館するとともに、平成26年には湖東図書館で月曜開館を開始。すべての曜日にどこかの図書館が開館しているサービス体制となりました。また、合併後はいち早くコンピュータシステムの統合を行い、図書館間で本を受け渡しできる巡回の仕組みも整えました。その結果、7館すべての蔵書を身近な図書館で受け取ることができるようになり、市民の利便性は飛躍的に向上しました。

市民のみなさんがどの図書館でも良いサービスが受けられるよう自分たちの歩む方向を示すものとして5つの目標・9つの指針を打ち立てました。

Five Goals

東近江市立図書館5つの目標

1. 豊かな暮らしにつながるための確かな情報を届けます
2. 人と本、人と人との出会いの場をつくります
3. 一人ひとりの居場所・憩いの場を保障します
4. 思いやりのあふれる街づくりに役立ちます
5. 市民と共に育ち、市民が育てる図書館を目指します

Nine Guidelines

東近江市立図書館9つの指針

1. 市民の求める資料・情報に、かならず応える図書館
2. 市民の生活に役立ち、地域の課題解決に役立つ図書館
3. 知る自由を保障し、利用者の秘密を守る図書館
4. 市内のどこに住んでいても、だれでも利用できる図書館
5. 子どもへのサービスを重視する図書館
6. 市民の“広場”としての図書館
7. 地球と人にやさしい図書館
8. まちづくりを進める市民が育つ図書館
9. 自立した職員と市民が協働して作っていく図書館

私たち図書館職員が大切にしてきたこと

市民一人ひとりの幸せを支えるため、私たちは充実した図書館サービスを日々積み重ねることが大切だと考えています。図書館の本来的な機能・役割は、「資料提供」。カウンターやフロアで皆さんの声を聴き、本の動きを見極め、社会や地域の課題について情報収集し、選書を行うことで鮮度の高い充実した蔵書を構築してきました。

7つの図書館は、地域に根差した特色ある図書館づくりを行っています。また、来館した人が思わず手に取りたくなるよう、定期的にテーマを変えて本を集める「特設コーナー」を設けたり、表紙見せを多くしたりと、棚づくりに工夫を凝らしてきました。さらに、絵本原画展、写真展、講演会など、多彩な企画事業にも力を入れてきました。図書館で「本物」に出会える機会を作りたいと考えているからです。

質の高い図書館サービスを維持するためには、「職員体制」「資料費の確保」「利用環境の整備」の三要素が欠かせません。東近江市立図書館の職員は、館長以下、全員が司書資格を持ち、サービスにあたっています。全職員が広い視野を持ち一体的に働くための仕組みとして、平成22年から「サービス事業グループ」を立ち上げ、各館からの選抜グループ構成員がそれぞれのサービス部門の検討課題、企画立案、事業の推進を全市的に担っています。毎年グループの構成や体制を見直し、目標に向かって業務を進めています。

そして、図書館の本務である「資料提供」のために、資料費は非常に重要です。市民に常に新鮮な資料を提供できるよう、他の予算を節約してでも職員は資料費確保のために心を砕いてきました。

また、図書館には「資料提供」だけでなく「居場所としての図書館」や「地域のひろば」としての「場」の提供」という役割があります。ほとんどの館が開館後20年を経過した頃から、施設や設備の老朽化が進んできたため、快適に図書館を利用いただけるよう、全館的な視点で中長期的なビジョンを持ちながら利用環境の整備を進めてきました。令和5年度に八日市図書館、令和6年度には能登川図書館が、長期の臨時休館を伴う大規模改修を実施しました。今後も、皆さんの身近な図書館を気持ちよく使っていただけるよう計画的に取り組んでいきます。

東近江市立図書館が「資料提供」を行う上で大切にしてきたサービスに、「全域サービス」と「児童サービス」があります。加えて、すべての人が読書の喜びを実感できるよう「バリアフリーサービス」にも力を入れてきました。近年の取組に至る経過と最前線をレポートします。



すべての市民に等しく図書館サービスを届けるために、日々移動図書館車が市内を巡回しています。

当市におけるその始まりは、八日市市時代に遡ります。平成2年、図書館からの距離による利用格差解消のため待ち望まれていた移動図書館車が運行を開始。テーマ音楽である「となりのトトロ」の曲を流しながら到着すると、子どもたちが「トトロのバスが来た」と歓迎してくれました。能登川町、永源寺町においても図書館の開館後もなく移動図書館サービスが始まりました。

合併後しばらくはそれぞれの地域内を巡回するにとどまっていたものが、平成21年度から八日市図書館と永源寺図書館を基地館とし、さらに広い地域にサービスを広げるための試行錯誤を重ねました。図書館から

市内全域へサービスを届ける移動図書館

1 km以遠の保育園、幼稚園、小学校と、3 km以遠の地域に1箇月間隔で巡回。その後、学校図書館への学校司書配置に伴い、小学校への巡回が順次停止されました。平成30年から「園の読書環境充実支援事業」に取組み、環境が整ったところから園への定期巡回を終了しました。

令和元年には、移動図書館活用の軸足を児童サービスから地域・高齢者サービスへと転換する計画を立て、令和2年度に車両も大型バスから職員が自分で運転できる小型車両へと切り替わりました。

合併後の20年間で激変した社会情勢や地域の状況のなかで、7つの図書館と移動図書館がひとつのシステムとして、より効果的・効率的に図書館サービスを提供するために、移動図書館は変遷をたげて来たのです。



東近江市立図書館の取組①

すべての人に本を届ける

図書館は赤ちゃんから年配の方まですべての年代の人が自由に利用できる施設で、その魅力は他の公共施設にはないものです。しかし、年齢や障害、住んでいる場所等、様々な障壁により図書館を利用することが困難な人たちもいます。そこで、そうした障壁を取り除くための調査・研究・施策立案を行う事業グループを全館的に組織し活動を行うことで、図書館への来館が難しい人に対し、移動図書館で本を届けてきました。

また、すべての子どもたちが豊かな本と出会えるよう、平成20年3月に東近江市が策定した「東近江市子ども読書活動推進計画」を軸に、子どもたちの読書環境を整備しました。その中で、園・学校の先生や学校司書、ボランティアなどとともに、地域で子どもと本をつなぐ様々な活動に継続して取組み、連携を強めてきました。

さらに、すべての市民が必要な情報を得られ、読書の喜びを実感できる図書館を目指し、バリアフリーサービスの充実を進めています。

まちを駆け抜けた移動図書館車たち



八日市図書館
「トトロのバス
(初代)」
平成2年～平成13年



能登川図書館
「ブックバス」
平成10年～令和2年

合併後は琵琶湖沿いの集落から奥永源寺まで「さんぼ」をテーマソングに活躍。最後は一台で東近江市内全域を巡回。車体のデザインは今の小型移動図書館車にも引き継がれています。
3 tトラック改造 AT車 1,500冊積載



「トトロのバス (2代目)」
平成13年～令和2年

車体には壁画家 松井エイコさんの絵が。となりのトトロのテーマソングが流れると、園児たちが走ってやってきました。
3.5 tトラック改造 MT車 2,500冊積載

永源寺の山奥も走れるよう、車体は4WD 1.5 tトラックの改造MT車。東日本大震災の後、陸前高田市へ譲渡され、その後は北海道で「社会実験：北海道の無書店自治体を走る本屋さん」として活躍しました。テーマソングはとなりのトトロの「さんぼ」。1,400冊積載



永源寺図書館
「やまびこ号」
平成10年～平成23年

今日はどこに行く？

令和7年度現在は、山間部など図書館から遠い地域に加え高齢者施設、子育て関連施設、こどもの家(学童保育所)など計43箇所へ、月に1回程度、定期巡回しています。その他に、申込みに応じて高齢者サロンや福祉施設、子育て支援施設などに伺い、本の貸出だけでなく出前講座やおはなし会も実施しています。



利用者の声

はじめは本に興味がなかった子どもが、成長するにつれて本を好きになったのは、移動図書館があったからこそだと思います。言葉を話したり、視野が広がったり、成長の支えになってくれて感謝しています。

A.T.さん 40代

移動図書館での様子① つどいの広場

親子連れでにぎわう「つどいの広場」。八日市地区のつどいの広場では、まずはおはなし会を行います。手遊びや絵本をみんなで楽しんだあと、読みたい本を選びます。家で毎日読み語りをしていると話してくださるお母さん。選んだ絵本で、バッグはすぐいっぱいに。赤ちゃんの利用カードを作って、さっそく絵本を借りる方も。つどいの広場には、来た人たちがいつでも触れられるように、図書館の絵本や子育ての本を利用した本棚が設置されています。一人では図書館に来ることができない子どもたちにも本を選んでもらう機会としても、移動図書館は大切な役割を果たしています。



つどいの広場 ぼれぼれ→

利用者の声

若い頃は八日市図書館の2階でコーヒー飲んだり、永源寺図書館をつかわしてもらったりしてたんやけど、年とると億劫になって行かんようになった。けど、車で近くにきてくれるので便利よう使わせてもらっています。読みたい本を伝えたら持ってきてくれるし、ほんまありがたいです。

足出 弘文さん 80代



移動図書館での様子② 永源寺地区 山コース

東近江市で最も三重県境に近い奥永源寺。図書館から遠く、来館が難しい方々がおられます。料理や手芸の本、畑仕事に役立つ本、大きな活字で書かれた小説。いつも来てくださる方の顔を思い浮かべながら本を選んで載せ、細い山道をたどり、みなさんの元へ向かいます。利用者のみなさんが変わらぬ元気な姿を見せてくださるとホッとします。何気ない会話を交わしながら一緒に本を選びます。「月に一度、移動図書館で本を選ぶことが楽しみだ」と話してくださる皆さんの笑顔が、私たち図書館員の力となっています。



移動図書館年表 (合併以降)

2000	平成 17年	八日市、永源寺、能登川地域で合併前からの移動図書館サービスを継続
	18年	サービス空白は正のため「全域サービス検討委員会」発足
	19年	八日市館から愛東地域へ巡回開始
	20年	全域サービス検討委員会においてサービス体制及びポイント見直しを実施
	21年	車両を2台に集約し、五個荘、湖東、蒲生地域への巡回を開始(市内全域79箇所)
	22年	小学校の学校司書配置校への巡回を順次停止
	23年	東日本大震災で被災した陸前高田市へ、「やまびこ号」を本とともに寄贈
	令和 元年	市の新規事業 OGR ※で「移動図書館(いきいき本の元気便)事業」の提案が採択される
		自治総合センター・コミュニティ助成(宝くじ助成)決定
	2年	移動図書館サービスの見直しと改編を実施(園へのサービス手法を転換)
		園の読書環境充実支援事業の進捗とともに園への巡回を順次縮小
		基地を八日市館に、車両を1台に集約。業者による運転委託は12月で終了
	3年 2月	軽トラック改造型移動図書館車完成・納車
	3年 3月	葉菜屋(池田町)にて「いきいき本の元気便」出発式 出前講座「いきいき本の元気便」初出動(浜野会館)

※ OGR……東近江市オリジナルグランドデザインレポートの略称で、職員による政策提言

いきいき本の元気便



令和3年3月から活躍している移動図書館車は、小回りの利く軽車両「いきいき本の元気便」です。市内各地に本をお届けし、元気な人を増やして地域を元気にしたいという思いから名付けました。以前に比べ積載できる本の冊数は減少しましたが、訪問する場所や、そこに来られる皆さんに合わせ、職員が毎回、持っていく本を厳選して用意しています。





子どもたちと本をつなぐ

まだ行ったことのない遠くの国や、会ったことのない人たち、過去から現在、未来まで、ひとたび本を開けばそこには無限の世界が広がっています。子どもたちはその広大な世界の中で、時には主人公と共に冒険をし、時には自分とは違う価値観や新しい知識に出会い、好奇心や想像力を自由にふくらませることが出来ます。また、大好きな人たちのぬくもりを感じながら本を囲み、一緒にその世界を楽しむ時間は、子どもたちの中

にあなたがたかな記憶として刻まれます。この、本の中で様々な経験をする事、大好きな誰かと幸せな時間を共有することは、

健やかな心と生きる力を育み、子どもたちの幸せにつながると私たちは信じています。

東近江市立図書館ではこれまで、図書館司書が1冊1冊、選びぬいた本を子どもたちに手渡してきました。子どもたちが豊かな本と出会えるよう、各館、魅力的な棚づくりや特設コーナーづくりを工夫しています。また、日々のおはなし会や、本物と出会える絵本原画展などを開催することで、本の楽しさを子どもたちに体感してもらう多彩な取組を行っています。

さらに、子どもたちにとって身近な存在である園や学校の先生、ボランティア、地域の人たちと連携しながら、市全体でより良い本との出会うの機会を作るために活動しています。

いきいき本の元気便

図書館司書がみずから運転する、小回りの利く移動図書館車になったことで、求められるときに柔軟な対応ができるようになりました。そこで始まったのが、「いつでも」「どこでも」「だれでも」本を利用でき、元気な人を増やすプログラム「いきいき本の元気便健康プラス」です。

この取組は、介護予防や認知症、地域の健康課題について保健師などの専門職がわかりやすく話をする時間と、本を使った音読や脳活などを図書館司書と一緒に体験する時間を組み合わせたものです。行く先々の要望に合わせて、きめ細やかなサービスをオーダーメイドで行なっています。

健康プラス



音読は、声に出して読むことで、脳の広い領域を使います。また、腹式呼吸による呼吸機能の向上や、のどの筋肉を鍛える効果もあります。図書館にある脳トレや運動の本を活用し、参加者全員で楽しく健康づくりをします。



図書館司書が昔ばなしや紙芝居、短い詩やエッセイの朗読をします。昔を懐かしんだり、情景を思い浮かべたりすることで、脳が活性化します。



図書館司書がおすすめの本を紹介した後、本の貸出をします。健康に関する本はもちろん、小説や雑誌など、その場にいる人同士が交流を楽しみながら本を手にとって下さいます。



保健師による認知症やフレイル予防、食生活など、健康にまつわるお話を聞き、自分の健康状態や生活習慣を振り返ります。

ちょっときてえな講座って？

「ちょっときてえな講座」とは、東近江市の生涯学習課が実施している講座です。市民からの「〇〇の学習をしたいので、ちょっときてえな」という要望に応じて、さまざまな専門知識や特技などを持つ市民、企業、または市職員が講師として地域に向向き、学習する機会を提供しています。

子どもたちと **本** をつなぐ取組



4 企画事業（児童向け）

絵本原画展をはじめ、ワークショップや講演会、コンサートや人形劇など、本の世界の楽しさを伝え、子どもたちの好奇心を広げる様々な企画事業を開催。子どもたちが本物と出会い、その素晴らしさを肌で感じる場作りを大切にしています。

← たじまゆきひこ絵本原画展
「花見じゃそうべえ」 令和7年2月～3月（湖東図書館）

5 園への支援

いつも子どもたちの身近に本がある読書環境を目指し、平成30年から幼児課と連携し、「園の読書環境充実支援事業」に取組み、園文庫の充実を図ってきました。本棚の整理から始め、古い本の除籍、家具の配置替えなどを園の先生と図書館司書が協力して行い、公立19園、私立4園の園文庫をリニューアルしました。その後も継続支援として図書館司書が定期的に園を訪れ、購入する本の選定や配置などについて相談を受けるなど、園と共により良い読書環境を作るための継続的な取組を行っています。園文庫整備に加え、幼児教育センターや幼児課と協力して、園の先生に向けた「絵本読み語り基礎講座」、「園文庫運営」などの研修を実施しています。



BEFORE



AFTER

※2箇年にわたり実施した園もあります。

実施年	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
実施園数	1園	12園	8園	1園	2園	1園

(モデル園)

1 おはなし会

大人に本を読んでもらうことは、子どもたちにとって楽しいひとときです。誰かに読んでもらうことで、子どもたちは本の世界に心から入り込むことができます。図書館では子どもたちに本の楽しさを届けるため、赤ちゃんと保護者の方に向けた「おひざでだっこのおはなし会」と、それ以上の年齢の子どもに向けた「おはなし会」、対象別に2つのおはなし会を全館で開催しています。



2 夏によむよむ

自由な時間が増える夏休みは、新たな本と出会い、じっくりと本に向き合うことのできる絶好の機会です。図書館では、たくさんある本の中から「夏休みにぜひ読んでほしい!」とおすすめする本を「夏によむよむ」というリストにまとめ、市内の全小中学校に毎年配布しています。平成22年から作成を開始し、小学校の低・中・高学年と、中学生向けの4種類を発行しています。



リストに載ったおすすめの本を読んだ中学生が、後日家族と一緒に「いい話だった」と伝えにきてくれたことも。

図書館ホームページ
「夏によむよむ」



3 図書館だより（こどもしんぶん）

各図書館では、子どもたちに本を紹介するため、「図書館だより」を毎月発行しています。なぞなぞや工作など、子どもたちの関心を引く内容も盛り込み、工夫をこらしています。

図書館ホームページ
「図書館だより」



平成13年から作り始めた八日市図書館の「こどもしんぶん」は令和8年3月で第296号。子どもたちの投稿により、新聞のタイトルが毎回しりとりで変わります。第1号から最新号まで25年間ずっと、タイトルのしりとりのバトンがつけられています。

第1号!



かきごおり・リュックサック・くりひろい・いしやきいも・もみのき・きたかぜ・ぜんざい……

6 学校との連携

図書館は、学校図書館向けに資料を貸し出すことにより、学校図書館の豊かな読書環境作りを支援しています。平成22年に市内全小中学校に学校司書が配置されてからは、図書館司書が学校司書と情報交換をしながら、子どもたちが図書館に来館するきっかけとなるスタンプラリーなどの催しや、調べものに役立つ主題ごとの本のリスト作りなどの連携事業を各地域で行っています。また、学校に図書館司書が出向いて、本の紹介やおはなし会を行ったり、学校の授業として、子どもたちの図書館見学や職場体験も受け入れています。



小学校訪問

特別な一冊

ある日図書館に来館した姉妹とお母さん。一番先に本を選び終わって退屈そうな女の子が、お姉ちゃんとお母さんを待っている間、一緒に絵本を読んで待っていました。その絵本は『サンドイッチ サンドイッチ』。後日、お母さんが「図書館で読んでもらってから娘の大好きな絵本になりました」と伝えてくれました。

『サンドイッチ サンドイッチ』
小西英子/作
(福音館書店)



心に残る
子どもたちの
エピソード



ずっと

幼い頃、おひぎでだっこのおはなし会に参加してくれていた女の子。職員が他の図書館に移るたびに、「会いに来た〜」と遊びにきてくれました。本が好きでずっと図書館に通い続けてくれていた彼女。中学生になったときには、「自分でも小説書いてみて」と、書いたものを見せてくれました。彼女の中で読書の楽しさが根付いているようで、とっても嬉しかったです。

10年後

小学5年生の子が、図画工作の時間に「10年後の自分の姿」というテーマで図書館司書になった自分の姿を粘土で作って図書館に持ってきてくれました。数年経った今でも図書館のカウンターに飾っています。

おりがみ少年たち

幼い頃からよく図書館に来てくれていた少年は、難しい折り紙が大得意で、テレビ番組に出たことも。大人になって、図書館でおりがみの作品展とワークショップをしてくれました。その超絶の技に驚いた新たな折り紙少年が何人も教えを乞いに来て、「大きくなったら僕も展示をする!」と言ってくれました。

受け継がれるもの

ある日、絵本コーナーで本の整理をしていたら、窓際から、絵本を読む小さな声が聞こえてきました。見ると、男の子がお父さんの膝の上で、身を乗り出すようにして、のりもの絵本に聞き入っていました。本を読んでいたお父さんは、幼い頃からよく図書館を利用していた男の子。中学生の頃は静かに微笑みながら小説を借りていってくれたものでした。カウンターで何気ない会話を交わしてきた彼が、父になり、自分の子どもに絵本を読む姿を目にし、感慨深く、とても心が温かくなりました。少年の頃の彼を思い出しつつ、長く図書館で仕事をしてきたことへの褒美をもらったような瞬間でした。



7

絵本読み語り基礎講座

子どもたちが本と出会い、その楽しさを知るためには、子どもに本を手渡す人の存在が不可欠です。平成30年度から、図書館では子どもと本を結ぶ担い手を養成するため「初心者向け 絵本の読み語り基礎講座」を市内各図書館を会場に開催してきました。この講座は令和6年時点で12回開催し、数多くの方が受講されました。



受講後、絵本読み語りのボランティア活動を始められた方もたくさんおられます。



8

おはなしボランティアグループとの連携

図書館は、各地域で子どもたちと本をつなげる活動をするボランティアグループと連携・協力し合いながら、おはなし会などの活動を通して、子どもたちに本の世界を届けています。



ルピナスさんの会

平成17年、合併を機に市内各地域で活躍していたボランティアグループが集まり「ルピナスさんの会」を結成。会の名前はバーバラ・クーニーの絵本『ルピナスさん』に由来します。子どもゆめ基金の助成を受けて、様々な企画事業を計画・実施しました。また、それぞれのグループの活動状況や子どもと本に関する情報交換を定期的に行うほか、合同でのおはなし会を開催しています。

ルピナスさんの会を構成する
ボランティアグループ

- 八日市地区：八日市おはなしグループ ホビット
- 永源寺地区：やまびこの会
- 五個荘地区：ひまわりおはなし会
- 愛東地区：おはなしボランティアグループ マーガレット
- 湖東地区：紙芝居サークル てんとうむし
- 能登川地区：おはなしポケット

※蒲生地区ではおはなしボランティアグループ「もこもこ」が個別に活動されています。

読書バリアフリーを進めるための取組



- 平成 22年 東近江市社会福祉協議会と連携し音訳ボランティアの育成講座を開催
- 24年 外国語の利用案内作成
(中国語・韓国語・英語・ポルトガル語)
- 29年 サピエ図書館(※)登録
- 令和 4年 「バリアフリーサービス版・点字版」利用案内作成
- 6年 「東近江市立図書館バリアフリーサービス基本方針」作成
- 7年 「能登川図書館いきいきコーナー」開設



東近江市市民活動推進交流会「わくわくこらぼ村」や「東近江市健康医療フェア」などのイベントで、読書支援機器の体験会を実施。

※サピエ図書館……正式名称は「視覚障害者等情報総合ネットワーク」点字図書や録音図書などの全国最大のデータ提供ネットワーク

誰もが読書の喜びを感じられる
図書館を目指して

市民誰もがいきいきと豊かに暮らせるよう、それぞれの求める資料や情報を確実に手渡すため、図書館におけるバリアフリーの実現に力を注いできました。

具体的な取組としては、活字を読むことが困難な方が読みやすい大きな活字の本や、音声で読書を楽しめる朗読CDなどの資料の収集・提供を積極的に進めています。

平成29年には、視覚等に障害がある方に向けて、点字図書や録音図書を検索・ダウンロードすることができるインターネット上のデータベースサービス「サピエ図書館」に加入し、国立国会図書館をはじめ専門性の高い外部組織や機関とも連携して幅広い資料を提供しています。あわ

せて、それらの資料を読むことをサポートする拡大読書器などの読書支援機器の整備を計画的に進めてきました。

また、日本語を母語としない方に対して、外国語の利用案内を作成するとともに、日本語学習のための資料や外国語で書かれた資料の充実にも取り組んでいます。

このような取組を進めてきましたが、依然、図書館を利用することが難しい方がおられます。東近江市に暮らす全ての方が読書の喜びを感じることができるよう、現状の取組のPRを行うとともに、個々の状況に合わせたサービスを届けられるよう、これからも力を尽くしていきます。

読書支援機器の整備

ポータブル音声読み上げ読書器
(プレクストーク)



デジター図書(デジタル録音図書)を再生し、読み上げをします。

音声・拡大読書器
(よむべスマイル)



文字を音声で読み上げたり、画面に大きく表示できます。

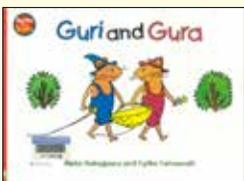


他にも…
LED付拡大鏡(↑写真)・老眼鏡・点字ラベラー・書見台・リーディングトラッカーなど

資料の充実

朗読CD

点字図書



英語や中国語などの外国語の本



大活字本



やさしい日本語や図で表現されたわかりやすい本 (LLブック)



医療関係者や
市民と連携して①

市内図書館でリボンカフェを



リボンカフェは毎月19日(ピンクの日)頃に開催



リボンカフェ参加者たちで手作りした乳房パッドを、東近江総合医療センターに寄贈する田中さん

市内の各図書館で定期的に開催している「リボンカフェ」は、がんの治療中の方やその家族、応援したいと思っている方などを対象にした相談室です。はじまりは、東近江市社会福祉協議会に寄せられた相談でした。「がんのことを知り、生活の悩みなどを語り合う場を作りたい」自身も乳がん経験者であり、ピンクリボンアドバイザーとして活動をされている田中和美さんの声は、図書館職員へとつながり、令和5年3月から図書館で開催されています。市民が気軽に訪れることができる図書館だからこそ、毎回参加者があり途切れることはありません。



田中 和美さん：がん予防啓発などを行うピンクリボンアドバイザー、がん教育外部認定講師

リボンカフェは、がん治療中の語りや情報共有の場でありたいと思っています。同時に図書館は医療と繋がる正しい知識を得られる場であってほしいです。

田中 和美さん

医療関係者や
市民と連携して②

独立行政法人 東近江総合医療センターと共に



がん診療セミナーで発表する図書館職員

令和5年10月5日、東近江総合医療センターで「東近江がん診療セミナー」(東近江市保健センター・東近江市立図書館共催)が開催されました。医療関係者や市民を前に、図書館職員が健康医療情報の提供や「リボンカフェ」の紹介を行い、田中和美さんが患者の立場から闘病中や退院後の生活の悩みなどを語りました。後日、東近江総合医療センターの大西正人循環器内科部長を招き、能登川図書館で「減塩・禁煙の大切さを学び、健康寿命を延ばそう！」(令和5年11月18日)と題した講座を開催するなど、地域の医療機関との協働の取組が進みました。



3

Collaborating
with the local
community

東近江市立図書館の取組②

互いにつながることで
広がる図書館サービス

図書館の本務は資料提供です。市民から求められる資料を確実に手渡せるよう、あらゆる分野の資料を幅広く収集し、蔵書を作り上げてきました。加えて、7つの図書館それぞれが各地域に根差した図書館づくりをめざし、郷土や地域に関わる資料・情報の収集にも注力しています。だからこそ図書館は、分野や職種を問わず、どんな相手先とも柔軟に連携し、資料提供を軸に様々な取組を行うことができます。

現在の地域課題は何か、図書館にできることは何かを考えるためには、地域のことを熟知している組織や団体、地域の皆さんとの関わりが欠かせません。特に力を入れて取組んでいる健康・医療、福祉分野では、東近江市社会福祉協議会や市の保健センターなど地域をよく知る専門職、そして地元のボランティアと連携し

た取組が成果をあげています。

また、行政サービスの向上のため、市役所他課と連携した取組も重要だと考えています。赤ちゃんからお年寄りまで幅広い世代が気軽に来館できる図書館は、格好の広報活動の場であり、図書館資料と組み合わせた情報提供と学びの機会の創出に効果が期待できます。そういった連携を幅広く進めていくためには、一人でも多くの市職員に図書館の役割や機能を知ってもらう必要があることから、業務に役立つ本のリスト「仕事に役立つ図書館だより」を発行するなどの取組も行っています。

私たちは、地域の皆さんをはじめ、行政・市民団体・医療機関など様々な立場の人たちとのつながりをきっかけに、図書館だけでは成しえなかったことに挑戦することができました。「成長する有機体」である図書館の進化は今も続いています。

市役所の他課や
外部組織と連携して

健康づくりに取り組む連携事業

この取組は、社会福祉協議会や保健センター、地域包括支援センター、長寿福祉課などとともにミーティングを重ね、市民の関心に沿った事業を展開しています。

図書館は幅広い世代が来館する施設であり、健康に関する本も数多く所蔵しています。そうした強みや特性を最大限に活かし、市役所の他課と連携して実施しています。

健康寿命を延ばすことは、高齢化が進む社会の大きな課題です。保健師などの専門職と図書館司書が連携して行っているのが「図書館でフレイル予防」や「図書館でいきいき脳活」など取組です。

01

「図書館でフレイル予防
秋のおでかけ版」

令和6年10月31日（永源寺）

【連携先】社会福祉協議会
長寿福祉課



ちょこっとバスを利用して八日市から永源寺へ。田んぼ道を歩き、本物そっくりなかかしで有名な小西さんの畑へ。



永源寺診療所の隣にあるレストラン「ラ・メゾン・ルーラル」で花戸貴司医師のお話を聞きます。

（その他）社会福祉協議会職員によるフレイル予防のお話など

02

「図書館でフレイル予防
見て食べて知る 健康のコツ」

令和6年12月12日（湖東）

【連携先】社会福祉協議会
農業水産課



専門職によるフレイル予防の寸劇



図書館職員による本の紹介と貸出

（その他）農業水産課職員によるお米の栄養のお話や試食など

03

「図書館でいきいき脳活」

令和5年9月27日（永源寺）
令和7年1月31日（五個荘）

【連携先】社会福祉協議会
地域包括支援センター
長寿福祉課



地域の音楽サークルによる演奏に合わせて歌います。



地域包括支援センターの職員から認知症についてのお話
ものわすれチェックは個別ブースで

（その他）図書館職員による本の紹介と貸出、長寿福祉課職員による健康アプリ「BIWA-TEKU（びわテク）」の紹介

職種を超えた
専門職と連携して

能登川図書館 健康医療情報コーナー「バオバブ」



県内の公共図書館とがん相談支援センターとの連携事業や、令和7年度に新設する能登川図書館いきいきコーナーへとつながっていくこととなります。

平成21年11月5日に開設した「バオバブ」は、健康医療に関する基礎的なものから専門性の高い資料まで約6千冊の本を揃えました。とりわけ、選書には留意し、専門的な内容の資料については、「地域から医療福祉を考える東近江懇話会」（市民、介護事業者、医療関係者、宗教家、行政、図書館など多岐にわたる分野のメンバーで構成）の協力、助言も得ながら進めるなど、東近江市ならではの特性に合わせた棚づくりを行いました。「バオバブ」の、地域全体に健康・医療・福祉の資料や情報を提供するという取組は、その後、

滋賀県内の図書館や
医療機関と連携して

『**医×図** 医療と図書館をつなぐ情報誌』の制作

誰もが気軽に利用できる図書館で、がんの予防や治療、相談先など必要な情報を必要な方に届けたい。そのような思いから、平成27年度に滋賀県公共図書館協議会が委員会を立ち上げました。委員となったのは、健康医療情報の提供に実績のある東近江市立図書館はじめ、健康医療に関する棚づくりに取り組んでいる県内の公共図書館職員です。滋賀県がん対策推進基金からの補助を受け、医療関係者と連携しながら、講演会や職員の資質向上のための先進地視察など様々な事業を行いました。また、がんの基礎知識や、医療機関・患者支援団体などへのインタビュー、おすすめの本などを掲載した『**医×図**』を制作し、図書館資料として貸出するとともに、必要とされる方へ手渡しました。



平成27年に滋賀県の平均寿命が全国トップとなったことから、要因分析が行われました。その結果、図書館数が多いことや本の貸出冊数が多いことが、要因の1つに上げられました。それは学習や自己啓発意識の高さを反映し、長寿に繋がっていると報告されています。その当時、図書館がサロンのような場所になれば・・・という声もあり、図書館は健康の維持・増進に欠かせない、全世代が気軽に集える場所なのだ改めて気づかされ、「なりたい自分」に近づくための健康づくりや介護予防活動を共に行ってきました。図書館だからこそできることや出会える人の幅の広さに日々感動し、私達の保健活動にも新たな可能性を感じています。

保健師 脇美早子さん（保健センター）

資料展示や共催事業

- 生活環境課
- 企画課
- まちづくり協働課
- 森と水政策課
- 観光物産課
- 博物館構想推進課
-

企画展示など

- ガリ版 100 の物語プロジェクト
- NPO 法人喜里 難病応援センター
- ちくちくの会
- NPO 法人愛のまちエコ倶楽部
- 特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会
- 東近江さとやま Nannies
- ピアサポートグループ さぼてんのはな
- 共同助産所 お産子の家
-

園の先生向けに共催で研修

- 幼児課
- 東近江市幼児教育センター

子ども読書活動推進など

- 生涯学習課
- 学校教育課
-

出前おはなし会や団体貸出など

- 認定こども園・保育所・幼稚園・小・中・高等学校など
- 学校司書

図書館運営支援・企画事業など

- 人と自然を考える会 (八日市図書館の喫茶運営)
- カモミールの会 (能登川図書館の喫茶運営)
- 楽楽ひろば (永源寺図書館を応援する市民グループ)

知る、感じる、
つながる
催し・企画

この度は 20 周年おめでとうございます。
図書館は地域の知恵袋です。高齢化に伴い生涯現役でありたい人にとって図書館の存在は重要です！私はお産の学習会でお部屋を借り、市民へ発信してきました。これからも、知の伝道者としてよろしく！
助産師 朝比奈 順子さん (共同助産所 お産子の家)

資料展示や共催事業

- 東近江市発達支援センター

移動図書館・おはなし会など

- 学童保育所
- 子ども食堂
- つどいの広場

子どもたちと
本をつなぐ

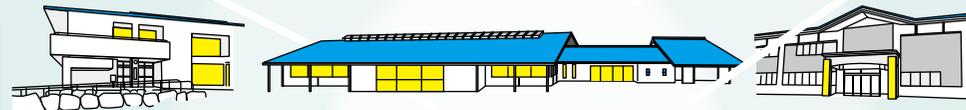
おはなし会や共催事業など

- 東近江市子育て支援センター
- 各地域のおはなしボランティアグループ
- ルピナスさんの会 (おはなしボランティアグループの連合)

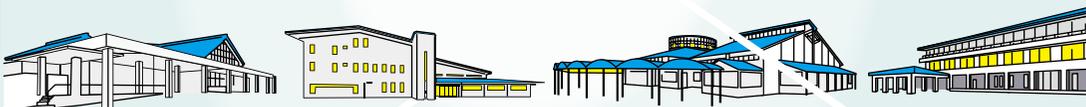
P36 参照

- 東近江市図書館協議会

20 周年、本当におめでとうございます。
"図書館"...とても温かな雰囲気の中で、趣味の本や絵本をみたり借りたり...たくさんの思い出が詰まっています。また職員さんとの出逢いから生まれた長峰の『えがお図書館』は、本と人とをやさしく結び、地域に笑顔と繋がりを広げてくれています。
これからも、この町のみんがが集まり、学び、そして笑顔になれる、みんなの大切な場所であり続けますように。
久郷 恵理さん (つどいの広場「えがお」)



図書館とつながる 組織・人々



私が図書館のみなさんと一緒にはじめたのは、地域の情報を紹介する小冊子『そこら』の編集作業です。2014 年から始まった活動もあったという間に 11 年。最初はお金もなく、「なんとかかなるか」で進めていき、周りには心配され、そして助けられ。しかし今では、『そこら』見たことあるよ。』『そこら』に載せてほしい」という声も聞かれるようになりました。その声に励まされつつ、これからも、"そこら"にある地域の魅力を伝えていきたいです。
森下 瑠美さん (NPO 法人 まちづくりネット東近江)

地域情報冊子『そこら』の作成

- 認定特定非営利活動法人
- まちづくりネット東近江

議会図書室の資料整備

- 議会事務局

本の紹介 (寄稿) など

- 広報課 (広報ひがしおうみ)
- 滋賀報知新聞社 (新刊本の紹介)
- 東近江ケーブルネットワーク (図書館だより)
- 各地域のコミュニティセンター (まち協だより)
- 滋賀県平和祈念館 (戦争や平和についての本の紹介)

図書館の魅力
を広く発信

- 教育研究所 (教員向けの本の紹介)
-

●東近江国際交流協会

- 公益財団法人東近江三方よし基金

- まちづくり協議会

- 地域支え合い推進協議体
- いっそう元気！東近江

第 2 層協議体

- 中野よいまち推進会議 [八日市]
- 建部の地域づくりを考える会 [八日市]
- 住めば都プラン推進会議 [永源寺]
- 五個荘地区住民福祉会議 [五個荘]
- 湖東の支え合いを考えるプロジェクト [湖東]
- わいがや支え合い蒲生 [蒲生]
- 能登川地区住民福祉活動計画推進会議 [能登川]
-

フレイル予防・健康づくり事業等

- 健康推進課
- 長寿福祉課
- 農業水産課
- スポーツ課
-

障害者向けサービスの充実

- 障害福祉課

資料提供

- 国立国会図書館
- 県内外図書館
- サピエ図書館

↑視覚障害など活字による読書が困難な方向けに資料のデータを提供するネットワークシステム

すべての人に本
と元気を届ける

移動図書館

- 高齢者施設
- 福祉作業所
- 市内のスーパーなど

事業の広報・資料の購入

- 地域の書店

共催事業など (健康・医療・福祉)

- 東近江市保健センター
- 東近江市地域包括支援センター
- 東近江市社会福祉協議会
- 東近江総合医療センター
- 地域から医療福祉を考える 東近江懇話会
- リボンカフェ (乳がん経験者や支える人のつどい)

資料展示や共催事業

- 人権・男女共同参画課
-



4
For better
life

東近江市立図書館の取組③
すべての人が
いきいき元気に

市民の暮らしや心のよりどころとなる存在でありたい。このような思いから、図書館では、日々の暮らしに寄り添った多種多様な資料を収集し提供してきました。

平成21年11月、その思いは、能登川図書館で健康医療情報コーナー「バオバブ」として形になりました。健康・医療・福祉についての基礎資料から専門的な資料まで幅広く揃えるだけでなく、病院の広報誌など東近江の地域医療に関わる情報も細やかに提供することを任務としていました。

そして令和7年3月、「バオバブ」は、「能登川図書館いきいきコーナー」として新たに生まれ変わりました。「すべての人がいきいき元気に」暮らせるよう市民の一生を支えることをめざした図書館づくりは、これからも、東近江市立図書館の大切な役割として引き継いでいきます。

くらしを守る資料コーナー

平成22年2月、リーマンショック後日々の暮らしに不安を抱える人々を支えるための情報提供を行うことを目的として、市内各図書館に「くらしを守る資料コーナー」を開設しました。雇用をはじめ、まちづくりや子ども・高齢者を取り巻く問題などについて様々な視点から本や情報を集めて提供しました。

令和7年現在も、八日市図書館では常設のコーナーとして、他館は随時特設コーナーを設け、時事に合わせて扱うテーマや本を入れ替えながら継続しています。



議会図書室



東近江市役所本庁舎3階にある議会図書室。令和2年度から、情報が古くなった資料の除籍を行ったり、資料を分類し見出しを入れるなど、議会事務局の職員と図書館職員が協力しながら整備をし、使いやすい棚づくりを進めてきました。行政や福祉、郷土に関する本などテーマを決めて本を集め、ミニコーナーを作っています。あわせて議会事務局で新たに購入する本の選定に協力したり、視察など議会運営で必要な資料の提供を行っています。

仕事に役立つ図書館だより

「行政・法律・社会」「教育・子ども・福祉」「はたらく」「郷土を知る」という4つのテーマに分けて、市職員の仕事の参考になる本を紹介しています。特におすすめしたい数冊については、表紙の写真とともに紹介文を掲載しています。市職員にもっと図書館を活用してもらいたいとの思いから平成30年度より作成を始めました。令和6年度からは新規採用職員向けの特別号も作成しています。このたよりを通して、図書館利用促進だけでなく、各課の仕事に役立つ資料を提供することで、行政サービス全体の質向上につながることを願っています。



読者の声

「仕事に役立つ図書館だより」を毎号楽しみにしています。自治体職員に必要な各分野の情報や知識を得られる書籍の紹介は、その名のとおり仕事に役立っています。司書さんならではの視点で書かれた今号の1冊や、郷土を知る本の紹介がお気に入り、紹介された本について興味を持ち図書館で借りることも多いです。

村田 淳子さん（布引の森ネイチャーセンター勤務）



**いきいき連続講座
ダンボール織り機で
コースターづくり 参加者の声**

段ボールという身近な材料で織り物ができることを知りました。5歳の子どもさんも上手に作っていて感動しました！

H.Mさん (女性 60代)



読書支援機器



まちのいきいきを集めた情報コーナー



カラフルなソファ席

情報コーナー

東近江市地域を中心に、医療・福祉関係の機関や団体の紹介、催し物案内などを集めた情報コーナーです。

対面朗読室

さまざまな読書支援機器を利用できます。また、ボランティアによる本の代読サービスを受けることができます。(要事前申し込み)

ソファ席

ゆったりとくつろいで、読書ができます。

誰もが実感できる読書の喜び

大活字本や、朗読CD、デージー図書など、それぞれの人に合った読みやすい本や拡大読書器、録音図書再生機など、読書を助ける機器があります。

心も体も健やかに

健康や医療情報、フレイル予防、介護に役立つ本などをそろえています。

好奇心の翼を広げて

趣味を極めたり、知識を深めたり、いろいろな集まりに参加したり。新しいことへの挑戦を応援し、毎日の暮らしをワクワクさせるヒントとなる本を集めています。

読む・感じる・知る・つながる。ここから聞く、新しい明日

能登川図書館

いきいきコーナー

市民とつくる・市民と育てる・市民の図書館

カウンター



わからないことがありましたらお気軽にお声がけください。

人生の主人公は私

いつだって自分らしく、心豊かな毎日を送れるように。自分らしい生き方について考えるきっかけとなる、様々な人の生き方を知るエッセイや暮らし方の本を集めています。

**新しい世界をひらく
能登川図書館いきいき連続講座**

このコーナーの資料を活用して“知る、感じる、つながる”ことを実体験できる「新しい世界をひらく 能登川図書館いきいき連続講座」を企画・実施しています。例えば「見えない障害『発達障害』ってなんだろう」と題し、発達障害について“知る”ための講座を開催しました。また、市民の方に講師になっていただき、新しい趣味を始めて誰かとつながる機会づくりにと「ダンボール織り機でコースターづくり」を開催し、子どもから大人まで幅広い年代の参加者が交流を深めました。

多様な可能性を模索しながら、皆さんの声を聞き、常に発見のある棚づくりをしていきたいと考えています。

開設してしばらく経った頃、「私の読みたい本ばかりがそろっているわ」いきいきコーナーの本棚から何冊も本を抱えながら、笑顔で話しかけてくれた方がいました。何が「いきいき」につながるのかは人の数だけ可能性がありますが、私たちはこのコーナーにどんな本を置くか、

筏川 いかだがわ

八日市市立図書館が開館翌年の昭和61年から発行した“住民と図書館が共同で企画・編集する街づくり情報誌”。「故郷の良さを見直す」をテーマに地元の名物やユニークな人物を紹介するなど、図書館が地域文化を掘り起こしていこうと作成されました。ダムに沈んだ岐阜県徳山村の写真展企画を特集した4号をきっかけに、「自然環境」をテーマとした記録映画の上映会や講演会など、多彩な企画事業の展開につながりました。この編集メンバーが中心となって、平成6年2月に「人と自然を考える会」が発足しました。同会は八日市市立図書館の応援団として同館2階の環境コーナー「風倒木」の運営に携わってきました。

地域情報冊子 そこら

『筏川』の理念を受け継いだ『そこら』は、市内のいいとこ・いいひとを見つける小冊子として、市内7館の司書と市役所の職員、まちづくりネット東近江の職員や市民とともに作っています。平成26年の第1号から始まり、おおよそ年に1回発行。まちづくりネット東近江が発行主体となり、図書館が取材や編集・デザイン面で全面的に協力しています。

地域で頑張っている人、気になるお店、地元の人ならではのおすすめの場所などを掲載。東近江市の今を取材することはもちろん、歴史のあるお祭りや、地元の伝統食も紹介します。市内の高校生が記者になったことも。令和7年現在11号を制作中。誌面づくりのモットーは「楽しんで、自分の目で見たいものを記事にすること」。

『そこら』のカメラマンとして撮影を通し、町の魅力や人とのつながりを改めて感じました。四季折々の景色もきれいで、自然も人もとても豊かな町だなあといつも感じています。

大澤明さん（『そこら』編集委員）



図書館から外へ

図書館の中だけに留まっていた地域の姿が見えないため、私たちは図書館から外へ出て行くことを大切にしています。

かつて合併前の八日市市立図書館では『筏川』という情報誌を市民とともに編集・発行していました。インタビューや特集記事で地域に関わる人や文化、自然など多様なテーマを掘り下げ発信する情報誌でした。昭和61年発行の第1号を皮切りに平成20年発行の20号まで23年間続いた『筏川』。しばらく発行が途絶えていましたが、今一度『筏川』の当初の理念に立ち返り、「地域を深く知るために図書館を飛び出そう。そして見聞きしたことを新たな『筏川』として形にしよう」と、何人かの職員が立ち上がり、出来上がったのが『そこら』です。

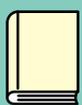
ある時は、地域の祭りに参加したり、またある時は筏を組んで川を下ったり。新しくできたお店など身近な情報から、地域の課題まで、『そこら』が取り上げる内容は多岐に渡ります。編集員は地域の動きにアンテナを立て、楽しみながら取材や編集作業を行っています。

こうした情報誌づくりや地域の人々と出会うことで見えてくるものは、図書館の選書や特設コーナー設置など日々の業務に生かされています。また、これらの活動を通して、地域の方々と顔の見える関係づくりができることも図書館として大きなメリットの一つです。

市民の皆さんとともに企画事業や、地域の課題に沿った資料展示を行うことによって、図書館の仕事の幅は何倍にも広がります。私たちは地域の中で『市民とともにつくる市民の図書館』を目指しています。



図書館利用者
みんなの
声



子どもの頃に「君にはこの本がいいと思うよ」と本をすすめてくれる司書さんがおられ、興味のない分野の本に関心を持つことができました。インターネットの情報のように自分の興味のある分野だけが機械的に出てくるものと違い、司書さんにすすめられたり返却コーナーで見かけたり、直接的、間接的なコミュニケーションの中で、今まで興味のない分野や世界を知ることができることが図書館の魅力だと思います。これからも東近江市には親しい距離に司書さんがいて、読書の幅が広がる図書館が身近なところであってほしいです。

垣見 直希さん (30代) 八日市地区在住



世の中には膨大な本がある。図書館の書棚にある本、みんな誰かが言葉を文字にしたもの。その言葉は、誰かに伝えたい一心で書かれたものだ。東近江市にある7つの図書館は、その言葉を私たちに伝えてくれる大切な窓口である。

私は、度々、身近な図書館に行って、最新の語りに接したいという思いで本を見つける。時に、新聞の書評欄に出る前の本を先読みして、得意に思ったりする。図書館職員の視点に驚くことたびたびだ。

加藤 七郎さん (70代) 湖東地区在住



子どもの頃から小鳥や魚捕りが大好きで山や小川に親しみ、その季節が来るのを待ちかねていました。長年力を入れて取組んできた農業を息子たちに任せ、第二の人生が始まったところで、生き物の木彫りに挑戦しようと、図書館へ走りました。一寸首をのばせば見える所に図書館はありましたが、今まで忙しくて足が向かず、初めて入る立派な図書館に背筋に緊張が走りました。だが、誰にでもすぐに読みたい本が見つかるようになっていきます。木彫りについては、手先と道具使いは少々心得ていますが、自分流を治すため、本が大いに参考になりました。昼は木彫りに夜は色々な本を借りて読書と有意義な日々を送りつつ、身近な場所に図書館がある恵まれた環境だなあとつくづく思っています。

図書館というと何となく堅苦しく聞こえますが、どうして、子どもから老人まで楽しく集まるところが作られて、政所茶をいただきながら気軽に話し合える魅力的な場所もあります。

図書館に通ううちに館を盛り立てる楽楽ひろばの今若さんと話が良く合い、館長からの勤めもあって、楽楽ひろばの協力のもと、図書館で作品展をすることに話がまとまりました。そこで、上二俣趣味の会を作り、町を挙げて何でも出品することとなりました。わずか50戸ほどの上二俣町ですが、14名の方の出品が決まり、集会所で出品物の調整や宣伝ビラの写真の撮影と大変でした。同じ町に住みながらビックリするような才能の持ち主にも出会い、作る喜びも色々話し合うことができました。初めての試みでしたが、混乱もなく見事な展示になり大成功の内に終わりました。地域の振興のため、また隠れた天才(?)を表に出すには展示会がまたとない機会だと思います。

さびれゆく地域活性化にも多少でも貢献できれば図書館の利用にも大いにつながると思います。ヤレバデキルを合言葉に、地域のみなさん、がんばりましょう。

岡崎 行雄さん (90代) 永源寺地区在住



4歳のころから月に2回くらい図書館に来ています。おりがみが好きで、図書館で借りた本をみて学校の友達に作ってあげたりしています。図書館には大好きなおりがみの本がいろいろあって、ワクワクします。おはなし会の時にするミニ工作も楽しみです。

森 栄翔くん (6歳) 愛東地区在住



- 3歳息子さん：乗り物の本のコーナーが好き。
- 7歳娘さん：図書館は面白い本がいっぱいあるから好き。一人で読むのも好きだけど、おはなし会も違う楽しさがあるから好き。おはなし会があると図書館に行きたいって思う。
- 30代お父さん：上の子どもが本が好きなので読んであげるようになり、図書館にもよく来るようになりました。夜寝る前に読んであげるのですが、嬉しそうに聞いてくれるので、がんばって長い物語を1冊全部読むこともあります。下の子は最初本に興味がありませんでしたが、上の子と一緒に読んであげるうちに好きになりました。

Kさん親子 (30代お父さん、7歳娘さん、3歳息子さん) 八日市地区在住



図書館は老若男女だれでも集えて、静かに自分の時間を過ごせる、大いなる癒しの空間。父と私は2週間に一度のペースで図書館に足を運んでいます。図書館にはありとあらゆるジャンルの本が美しく並べられており、その中からいつも私はお気に入りの本を5冊ほど見つけて借りて帰ります。父も3冊ほど借りるので、我が家では年間200冊以上の本を借りている計算になります。図書館は私にとって最も大切な場所であると同時に、本をたくさん読みたい子や、静かな環境で勉強したい子にとっても必要不可欠な場です。

井上 華風さん (10代) 蒲生地区在住



図書館は、楽しいやおもしろい、悲しいなど、いろんな感情になれる本に出会えるところだと思います。私はいつも新しく買った本を一番に見に行き、おもしろそうな本はないかなと探します。好きな作家さんやシリーズの本も借りつつ、いつも新しい本を探しています。普段ならあまり読むことのない本に出会えるので、図書館が大好きです。

R.Y. さん (20代) 五個荘地区在住



いつも子どもたちと一緒に利用しています。絵本がたくさん置いてあり、子どもは図書館へ行くことを毎回楽しみにしています。また、職員の方が皆さんとても親切で、アットホームな雰囲気大好きです。

M.Y. さん (30代) 能登川地区在住



東近江市立図書館 20 年のあゆみに寄せて

東近江市教育長 藤田 善久

このたび、東近江市立図書館の合併から 20 年の活動を冊子にまとめ発行することができ、大変うれしく思っています。20 年という年月は、一つの取組がしっかりと市民の皆様浸透し、根付くために必要な時間ではなかったかと改めて感じています。

私は合併当時、教育委員会事務局に行政職員として勤務しており、「合併後の公立図書館のあり方」の議論や蒲生図書館の整備、五個荘図書館の五個荘中学校図書館との併設に携わりました。これらの整備によって東近江市立図書館は 7 館体制となり、移動図書館車と共に、赤ちゃんからシニア世代まで、すべての年代の人たちがそれぞれの目的に合わせて手軽に利用できる施設として歩みを進めてきました。

しかし、子どもたちをはじめすべての世代の人たちの手元には当たり前のようにスマートフォンやタブレット、ゲーム機があり、子ども読書活動推進計画のキャッチフレーズに掲げる「～いつも手元に読みかけの本を～」といった日常を描くには少しハードルが高くなっています。街の本屋さんが減少し、若い家庭からは書籍や新聞が消え、子どもたちの手から文字（活字）文化が抜け落ちようとしているといった感さえあります。

言葉の貧困と言われて久しくなりますが、テレビでアナウンサーが正確で品格のある日本語を用いる「しんがり」でありたいと話されていました。市立図書館は新しい言葉の使い方も知っておかなければならないものの、この 20 年の活動を振り返る中で、今後の活動がアナウンサーと同様に正確で品格のある日本語を用いる「しんがり」でありたいし、「先鋒」でもなければならぬとの思いを強くしたところです。



東近江市図書館協議会

図書館協議会は図書館の運営に関し、館長の諮問に応じて、図書館の行うサービスについて意見を述べる機関です。（図書館法第 16 条及び東近江市図書館条例第 3 条により設置）

近年の主な議題

より良い図書館運営の実現のため、委員の皆さんからは以下の議題やその他運営上の課題などに対しご意見をいただきました。

- ・図書館運営および活動実績の報告
- ・移動図書館「いきいき本の元気便」の取組について
- ・図書館利用に障害がある人に向けてのサービスについて
- ・子どもたちの読書活動推進について
- ・図書館実利用率向上のための取組について
- ・地域連携の取組について
- ・全館での企画事業の実施について
- ・能登川図書館「いきいきコーナー」（新設）について

図書館協議会委員

- | | |
|---------------------|--|
| 学校教育関係者 | 安食 敬（五個荘中学校校長）
江畑 善博（市原小学校教頭） |
| 社会教育関係者 | 京田 純子（おはなしグループホビット）
福田 純子（紙芝居サークルてんとうむし）
太田 清蔵（NPO 法人結の家代表）
奥村 昭（社会福祉法人六心会（五個荘）地域支援担当）
中西 知史（東近江市社会福祉協議会地域福祉課係長）
西條 由紀夫（画家・染色家） |
| 家庭教育関係者
（図書館利用者） | 桂田 陽子（元中学校教師）
周防 清子（県新規採用保育教諭研修指導員、元東近江市幼児教育センター所長）
船川 有美子（小学校読書ボランティア） |
| 学識経験者 | 宇都宮 香子（前野洲図書館館長）
岸本 岳文（元滋賀県立図書館館長・元京都産業大学文化学部教授） |
- 令和 7 年現在（13 人）【任期：令和 7 年 8 月 1 日～令和 9 年 7 月 31 日】

「絵本を読んでみませんか」音訳ボランティア講座に参加していた私にかけられた司書さんの言葉です。その後、おはなしのボランティアグループをつくり、多くの子どもさんたちと一緒に絵本やお話を楽しんできました。

協議会に参加させてもらってからは、司書の方たちが「東近江市の人たちがいきいきと暮らしていくためには何ができるのか」を熱心に考え、実践されていることがよくわかりました。

これからも、みんなの笑顔あふれる図書館であり続けてほしいと思います。

図書館協議会会長 京田 純子

2026	2020				2015				2010				2005																	
令和8年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年										
1月	3月	1月	3月	10月	3月	2月	3月	4月	1月	3月	10月	4月	3月	4月	6月	4月	2月	11月	9月	4月	1月	12月	11月	9月	3月	4月	1月	12月	4月	2月

1市4町合併(八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町)
市内巡回開始・八日市図書館で火曜日の開館を開始
「社会教育活性化21世紀プラン」受託(平成17~18年度)
「東近江市立図書館計画中間答申」を答申
1市2町合併(東近江市・能登川町・蒲生町)
市内全館の電算システム統一・図書館ホームページ開設
利用カード統一
文部科学省「地域の図書館サービス充実支援事業」受託(市民向け講座を開催)
「東近江市子ども読書活動推進計画」策定
市内読書推進モデル校に学校司書配置
能登川図書館 土日と祝日が重なる日の開館開始
東近江市でブックスタート事業開始
おひざでだっこのおはなし会 全館で開始
蒲生図書館開館
「地域から医療福祉を考える東近江懇話会」参加
ホームページからインターネットによる本の予約受付開始
文部科学省「子ども読書の街づくり事業」受託(市内の小学校などで様々な子ども向け事業を開催)
愛東図書館に児童書を集め子ども向けサービスに注力
能登川図書館に「健康医療情報コーナー・バオハブ」を開設
「くらしを守る」就労支援・生活支援に役立つコーナーを全館に設置
館内業務を横断的に進めるためのサービス事業グループを発足
「地域で育む子ども読書活動推進事業」受託(市内の小学校などで様々な子ども向け事業を開催)
移動図書館車「やまびこ号」を東日本大震災で被災した陸前高田市に寄贈
図書館システム更新
愛東図書館が愛東コミュニティセンター内に移転
Library of the year 優秀賞 受賞
外国語の利用案内作成(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語)
「東近江市子ども読書活動推進計画」第2次計画策定
市内の全小学校図書館に学校司書配置

地域情報冊子『そこら』発行を開始(年1回)
国立国会図書館「歴史的音源配信提供サービス」・「デジタル化資料送信サービス」参加
湖東図書館で月曜日の開館を開始
五個荘図書館が五個荘中学校敷地内に移転
医療と図書館をつなぐ情報誌『いっと(医×図)』作成(滋賀県公共図書館協議会発行)
愛東図書館開館時間変更(午前9時~午後5時)
「東近江市立図書館心身障害者(児)に対する郵送貸出実施要綱」策定
サピエ図書館登録
「園の読書環境充実支援事業」開始
「東近江市子ども読書活動推進計画」第3次計画策定
庁内向け「仕事に役立つ図書館だより」発行
図書館ホームページを市のホームページに統合し刷新
「図書館でいきいき脳活」開催(福祉総合支援課(当時)と連携)※以降、市内各図書館で開催
図書館システム更新
八日市図書館改修工事(第1期)【9月23日~10月3日休館】
コロナ禍による休館【4月23日~5月10日】
【3月~6月 映画会・お話し会 7月~対策を講じて再開】
いきいき本の元気便スタート・新利用案内作成
永源寺図書館改修工事【11月29日~12月7日休館】
「バリアフリーサービス版・点字版」利用案内作成
能登川図書館でリボンカフェを開催(以降、八日市、蒲生、湖東でも開催)
「東近江市子ども読書活動推進計画」第4次計画策定
八日市図書館で「図書館でフレイル予防」を開催(以降、能登川、蒲生、湖東、永源寺、五個荘でも開催)
八日市図書館改修工事(第2期)【10月30日~令和6年2月26日休館】
「東近江市立図書館バリアフリーサービス基本方針」作成
能登川図書館改修工事【11月1日~令和7年3月21日休館】
市のホームページ刷新に伴いホームページ更新
「能登川図書館いきいきコーナー」を開設
図書館システム更新・図書館アプリ運用開始



年表 (主な企画事業)

2015				2010				2006																																				
平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年																																	
8月1日	6月13日	1月18日	11月28日	11月12日	11月3日	12月7日	11月30日	9月4日	7月20日	6月12日	6月12日	3月15日	12月1日	10月6日	8月4日	7月7日	1月15日	12月17日	10月29日	8月6日	5月28日	3月26日	3月2日	3月19日	2月11日	1月23日	11月18日	10月20・21日	9月1日	1月5日	27日	11月20日	7月23日	7月19日	2月11日	2月16日	12月16日	12月8日	12月23日					
八	能	八	五	永	八	八	能	能	八	湖	八	能	永	永	八	八	蒲	永	愛	永	永	蒲	能	蒲	能	蒲	能	能	能	永	八	蒲	能	八	蒲	能	八	八	八	各館				
・ジョー・オダネル写真展「トランクの中の日本」(〜8月16日)	・嘉田由紀子講演会「昔の生活写真からよみとれる未来への伝言」	・相川明子監督「さあのはらへいこう 青空自主保育の三年間」上映会&講演会	・川内倫子講演会「好きなことを見つける」	・はしもとみお作品展「本の森の動物図鑑」(〜12月14日)	・二五八祭「はたらキッズパーク」図書館のお仕事体験	・いしいしんじトークイベント「シスコ大好き」	・生誕百年記念「描くよるこび見るよるこび 塔本シスコ展」(〜12月28日)	・増田洲明 おわび紙と書とことば「ひととけといのちと」(〜10月13日)	・早川鉄平「切り絵の森」展示(〜9月1日)	・大西暢夫写真展「津波の夜に 3・11の記憶」(〜7月14日)(7月20日〜8月18日)	・大西暢夫写真展「ふたにく」(〜7月14日)	・ドレクスキップ「北欧の音楽を楽しもう」コンサート	・南の島のちくちくちく カオハガンキルト展(〜28日)	・【子どもゆめ基金助成事業】川端誠「絵本ライブ」	・國森康弘講演会「いのちつぐ「みとりびと」 永源寺・10月10日〜25日 八日市(7月7日〜8月12日 永源寺)	・國森康弘写真展「いのちつぐ「みとりびと」	・森崎和江講演会「いのちへの旅々生きつつつけるものへ」	・「いあわせる」は「しあわせる」〜「しあわせの経済学」映画上映・ワールドカフェ 講師：上田洋平	・図書館ミニ落語会 桂米平	・愛東図書館リニューアルオープン記念式典	・永源寺地域での学び〜	・上畑鉄之丞講演会「過労死サバイバル―仕事ストレスが心身を蝕む前に」	・ようこそワヤン(ジャワ島影絵芝居)の世界へ	・早川純子絵本原画展「山からきたふたご スマントリとスコスロノ」(〜27日)	・映画「バオバブの記憶」上映会&中村隆市講演会	・原画展「高島純の笑うえほん」(〜26日)	・小学生のためのオーサービジット 講師：杉山亮	・小学生のためのオーサービジット 講師：富安陽子	・【地域で育む子どもの読書推進事業】国民読書年記念事業フォーラム	・大きな家々タイムグラの森の子どもたち」上映会&パネルディスカッション	・「さあ、遊ぼう!大人も子どももみんなよつといで」〜子どもの本の力を考えるフォーラム〜 講演会「いま、どのように子どもたちに本を手渡していくか」	・対談：長野ヒデ子、広瀬恒子	・熊丸みつ子講演会「思春期の素敵なあなたたちに伝えたい」	・【読書で生きる力をはぐくむ東近江市】子ども読書の街「づくり事業」 落合恵子講演会	・「崖つぶちに立つあなたに…あなたは、あなただから素敵なのです」	・西村繁男絵本原画展「はらっぱ」	・親子遊びとおはなし「笑顔いっぱい・元気いっぱい」	・田島征彦原画展「じごくのそらべえの世界」(〜8月2日)	・ラム〜 あべ弘士講演会「ほくと絵本と動物と」ほか	・【地域の図書館サービス充実支援事業】フォーラム 元気なあしたをみつめよう〜 図書館でまなぶ・あそぶ・つながる〜	・映画「ナミイと唄えば」上映会・本橋成一監督講演会	・講演および対談 講師：清水真砂子、村中李衣	・東近江市子ども読書活動推進フォーラム「あしたにかける橋」	・【社会教育活性化21世紀プラン】地域資源を生かした「まちづくり」事例研究
八日市	能登川	八日市	五個荘	永源寺	八日市(本庁前)	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	湖東	八日市	能登川	永源寺	永源寺	永源寺	永源寺	愛東	永源寺	永源寺	永源寺	永源寺	能登川	蒲生	能登川	蒲生	能登川	能登川	永源寺	八日市	八日市	蒲生公民館	蒲生公民館	能登川	八日市	八日市	各館						

開催年	開催日	開催地	開催内容
平成28年	2月19日	八日市	【八日市図書館開館30周年記念事業】東近江のいいひと・いいもの展(そこら展)(〜2月28日)
平成29年	2月28日	八日市	・作り手と使い手を結ぶギャラリートーク&座談会「図書館について語ろう」
	6月11日	能登川	・「本と私と祈りの板画〜田中武作品展〜」(〜7月24日)
平成30年	9月23日	能登川	・数内正幸原画展「動物が好き」(〜10月23日)
	11月27日	五個荘	・スズキコージワークショップ「かんむりや万国旗をつくってパレードしようぜい!」
平成31年(令和元年)	3月16日	永源寺	・大豆生田啓友講演会「マメ先生にきくいまどきの子育てに大切なこと」
	9月6日	能登川	・「ごどもに届け夢のたね展」マレットファンがやってくる」(〜10月22日)
令和2年	10月25日	能登川	・タイムスケール20 YEARS 開館20周年記念展(〜11月12日)
	11月9日	能登川	・田澤雄作講演会「メディアと子どもの成長」
令和3年	11月23日	蒲生	・高部晴市ワークショップ「みんなでガリガリオリジナルカレンダーを作ろう!」
	1月23日	八日市	・いわさきゆうこ絵本原画展「やさいもどんぐりも、みんなあつまれ〜!」(〜2月25日)
令和4年	2月24日	五個荘	・はやしすすみ「たんぼレストラン」原画展(〜3月25日)
	3月17日	蒲生	・ライブラリーコンサート「アラブの風を感じる 常味裕司ウードの調べ」
令和5年	5月11日	湖東	・沢島忠監督回顧展(〜6月3日)
	6月29日	八日市	・第1回図書館でいきいき脳活!
平成31年(令和元年)	11月7日	蒲生	・山口マオと楽しむ絵本「わにわに」の世界(〜12月16日)
	12月5日	八日市	・おすそわけ野菜市(いっそう元氣東近江との共催事業)
令和2年	1月16日	八日市	・絵でつなぐ戦争と児童文学 絵本原画展「絵で読む広島の原爆」(〜2月3日)
	1月20日	八日市	・那須正幹講演会「スツコケ三人組 平和を語る」
令和3年	3月1日	五個荘	・山根ひろみ・福知幸「アイリッシュハーブコンサート」
	11月7日	能登川	・大石芳野写真展「長崎の痕―それでも、ほほえみを湛えて、生きる」(〜12月15日)
令和4年	12月7日	能登川	・大石芳野講演会「戦禍の記憶」
	11月20日	蒲生	・なんめんよしこ「本の森の動物たち しんぶんしアニマルアート展」(〜12月14日)
令和5年	2月15日	永源寺	・(12月18日〜1月23日 永源寺)
	3月1日	蒲生	・ラトビアの文化と手しごと展(〜3月21日)
令和2年	2月15日	蒲生	・ワークショップ「きうちかつさんとあそぼ〜!」
	3月1日	五個荘	・ワークショップ「きうちかつさんとあそぼ〜!」
令和3年	10月7日	永源寺	・永源寺図書館開館20周年企画「としよかんのおたんじょうび」(〜11月1日)
	10月14日	能登川	・写真展「大西暢夫の仕事〜いのちとくらしをみつめて〜」(〜11月22日)
令和4年	10月18日	蒲生	・ウズマニープ「春待つラトビアの調べ」コンサート
	3月5日	八日市	・【東近江市立図書館連携企画事業】本と人くららしをひろく」
令和5年	3月6日	湖東・五個荘	①ドキュメンタリー映画「つつんで、ひらいて」上映会
	3月18日	八日市	②鈴木まもる原画展「てをつなぐ」(〜4月18日)
令和3年	3月28日	八日市	鈴木まもる講演会「『てをつなぐ』と鳥の巣の不思議」
	9月8日	蒲生	・たけがみたえ絵本原画展「みたらみられた」「マンボウひまな日」(〜10月21日)
令和4年	10月20日	能登川	(10月2日ワークショップ)
	11月6日	八日市	・秋野亥左絵本原画展(〜11月28日)
令和5年	11月9日	八日市	・北川純一「湖南鉄道から八日市鉄道近江鉄道の名所案内」(〜11月26日)
	3月5日	八日市	・数内正幸絵本原画展(〜3月29日)
令和4年	5月18日	能登川	・「いくつもの空の下で」小池アミノ「イラストレーション展+澤田康彦「青春」コレクション」(〜7月3日)
	6月8日	八日市	・蓮溪円誠「木のカラクリおもちゃ展」(〜6月19日)
令和5年	11月9日	湖東・愛東	・【湖東図書館30周年記念事業】「北へ南へ!紙の世界のどうぶつ探検なんめんよしこ新聞紙アニマルの世界」(〜1月22日)
	11月13日	能登川	・ピンクリボンフェア「乳がんになっても明るく楽しく笑顔で」
令和5年	1月18日	能登川	・加藤休ミクレヨン絵本原画展みんなで見においで!「デリバリーぶた」「さかなをたべたあとのほね」(〜2月19日)
	3月4日	五個荘	・【1冊の本から元氣をもらおう連続事業】
令和5年	3月19日	湖東	①小西貴士写真展「そらぶちのかケラ〜難病とたたかう子どもたちの夢のキャンプ」(〜3月31日)
	3月19日	全館	②おすそわけ野菜市(湖東地区まちづくり協議会との共催)
令和5年	3月19日	湖東	・【医療福祉連携・図書館で健康づくり連続講座】開始
	3月19日	湖東	・図書館でいきいき脳活!(9月 永源寺、2月湖東)
令和5年	3月19日	湖東	・図書館でフレイル予防!(10月 八日市、12月 能登川、2月 蒲生)

CONCERT & WORKSHOP

「みんなで北欧を楽しもう！ in 湖東」

会期 平成 25 年 3 月 5 日～3 月 17 日
湖東図書館 ほか

合併前からスウェーデン・レトヴィック市と交流を続けてきた湖東地区。複数の団体が連携し、料理、コンサート、北欧水彩版画、彫金など、様々な体験を通して北欧の魅力を知ることができる連続事業を開催しました。



↑ Drakskip - ドレクスキップ
「北欧の音楽を楽しもう」のコンサート



EXHIBITION

なんめんよしこ・しんぶんし アニマルアート展



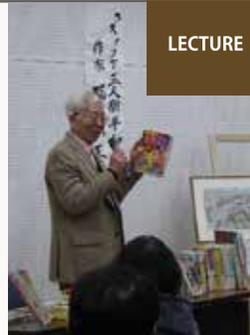
会期 令和元年 11 月 20 日～12 月 14 日 (蒲生図書館)
12 月 18 日～令和 2 年 1 月 23 日 (永源寺図書館)

頭のとっぺんからしっぽまですべて新聞紙で作られた様々な動物たち。なんめんさんによって命を吹き込まれた動物たちは今にも動き出しそうなほど本物そっくりです。龍の背中に乗った子どもたちは大喜びでした。

那須正幹講演会 「ズッコケ三人組 平和を語る」

日時 令和元年 1 月 20 日
八日市図書館

ズッコケ三人組シリーズが有名な那須さん。自身の幼少時の広島での戦争体験とそこから生まれた西村繁男さんとの共著「絵で読む広島の原爆」(福音館書店)について語っていただきました。



LECTURE

EXHIBITION & LECTURE

長倉洋海講演会 「一人一人の子どもたちから見てきた『世界』」

日時 令和 7 年 3 月 30 日 八日市図書館

写真展「写真家長倉洋海が世界で出会った子どもたち」

会期 令和 7 年 4 月 2 日～5 月 11 日 能登川図書館

紛争地に生きる人々の姿を追いつけてきた長倉洋海さんのドキュメンタリー映画『鉛筆と銃』上映会の後、世界各地で出会った子どもたちに感じた“希望”について語っていただきました。写真展では数多くの作品の中から子どもたちを撮った写真約 80 点を展示しました。

〈長倉さんからのメッセージ〉

皆様のご協力で展示は素晴らしいものになったと思います。何よりも一致協力して、熱い思いでやっていただけたこと、いままでたくさんの写真展をやってきましたが、これほどスムーズに私の思いが伝わり形になったことはなかったように思います。本当に本当にありがとうございました。



PICK UP !

CONCERT

ジャワ島の影絵芝居コンサート



日時 平成 23 年 3 月 26 日 蒲生図書館

ジャワ島の影絵芝居「ワヤン」のコンサート。ワヤンで人気の物語「スマントリとスコスロノ」原画展に合わせて開催。ジャワガムランの荘厳な音色が図書館に響きました。

EXHIBITION

藪内正幸原画展 「動物が好き」

会期 平成 28 年 9 月 23 日～10 月 23 日
能登川図書館

動物たちのぬくもりや息づかいまで感じられる数多くの動物画を描き、優れた絵本や挿絵の数々を遺した藪内正幸さん。絵本『もうおきるかな』(福音館書店)の原画を中心に『冒険者たち』(岩波書店)の挿絵、ワシやタカのスケッチ等を展示しました。



WORKSHOP

スズキコージワークショップ

「かんむりや万国旗をつくってパレードしようぜい！」



日時 平成 28 年 11 月 27 日
五個荘図書館

ろうけつ染めや絵が飾られた会場は絵本作家スズキコージさんの世界。スズキさんと一緒に色とりどりの旗やかんむりを作りました。仕上げに自作のかんむりを被り楽器をもってみんなでパレード！

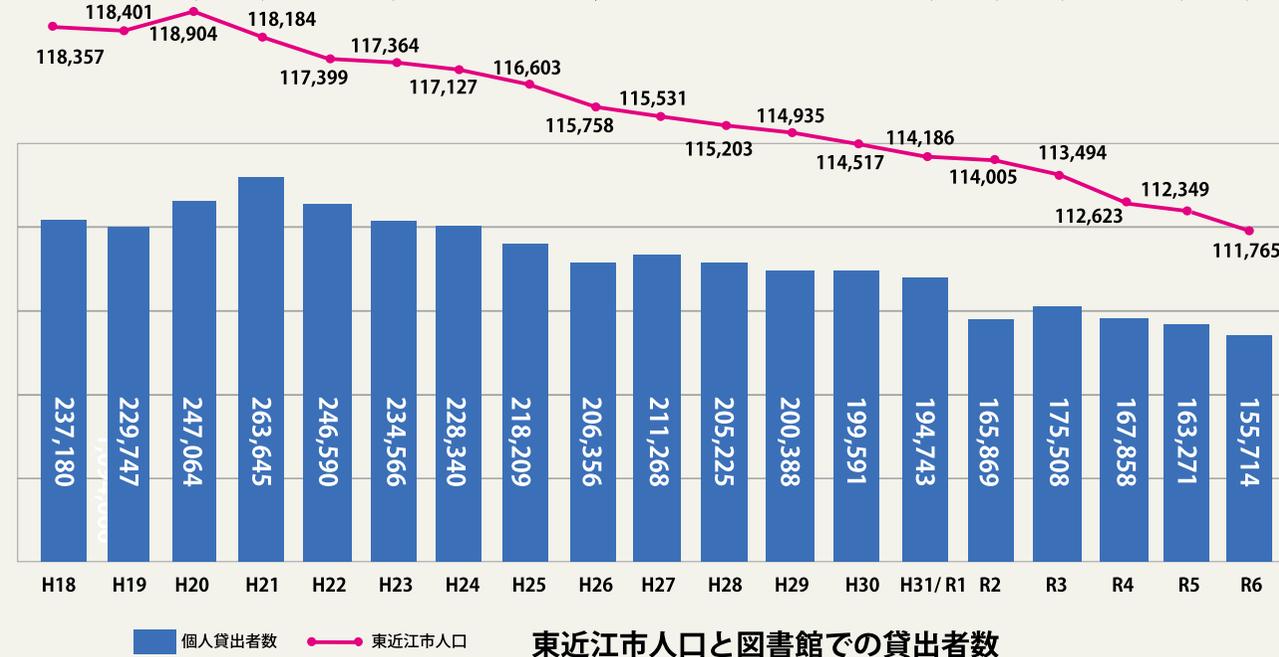
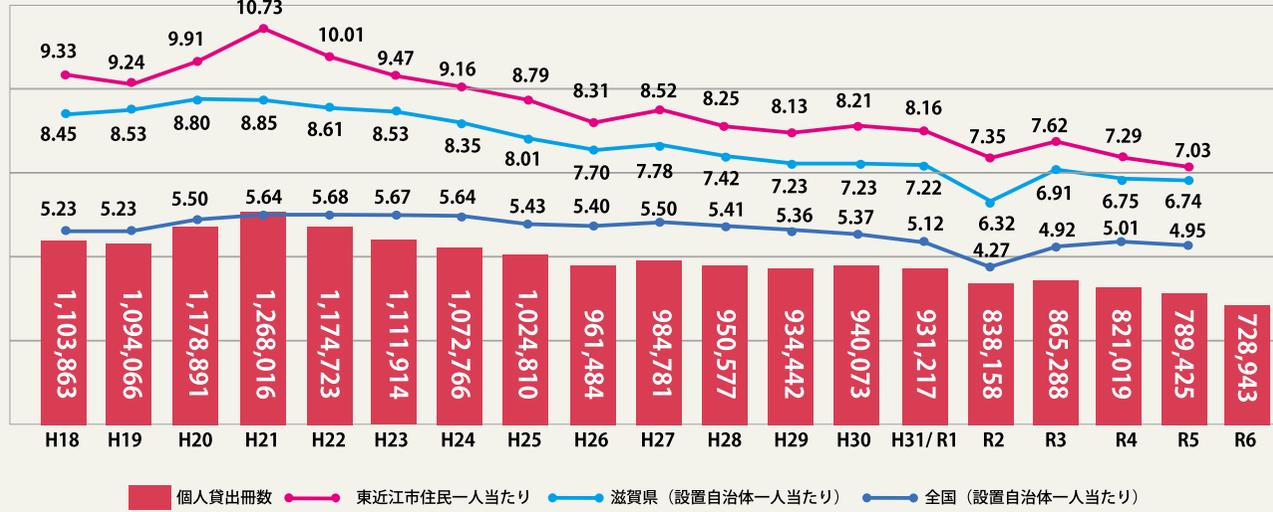
			令和 7 年						令和 6 年
4 月 2 日	3 月 30 日	2 月 24 日	2 月 15 日	12 月 1 日	11 月 6 日	4 月 13 日	1 月 13 日	1 月 13 日	1 月 13 日

能 八 八 湖 湖 五 五 永 湖 永 能

- ・とりごえまり絵本原画展「げんきになったよ、こりすのリック」(～2月18日)
- ・ユカワアツコ原画展+作品展「となりの鳥」(～2月10日)
- ・(2月15日～3月16日 湖東)
- ・「書/磯部南海雄 陶/中野亘 二人展 常楽我浄」(～5月11日)
- ・【移転10周年記念特別事業】いとうひろし原画展「ルラルさんのたきび」(～12月8日)
- ・「1冊の本から考える「平和」事業」
- ・ワークショップ「くものニイドのくものすをみんなで作ろう！」
- ① 田島征彦絵本原画展「花見じゃそうべえ」(～3月16日)
- 田島征彦講演会「絵本で何ができるか」
- ② 写真家・長倉洋海 映画「鉛筆と銃」上映会
- 長倉洋海講演会「一人一人の子どもたちから見てきた『世界』」
- 写真展「写真家長倉洋海が世界で出会った子どもたち」(～5月11日)

能登川 八日市 八日市 湖東 湖東 五個荘 五個荘 永源寺 湖東 永源寺 能登川

人口1人当たりの貸出冊数



東近江市人口と図書館での貸出者数

東近江市立図書館の統計

東近江市立図書館は蒲生図書館が開館した翌年、平成21年（2009年）に最も多くの貸出冊数を記録しました。その後、スマートフォンの普及やライフスタイルの変化などの社会状況の変化により減少傾向にあります。しかし、人口一人当たりの貸出冊数は全国平均と比べても高い水準を維持しています。

引き続き資料の充実に努めるとともに、他課や他の組織と連携をすすめ、より多くの本を市民の皆さんに手渡せるよう力を尽くしていきます。

20年でこれだけの本が貸出されました



貸出冊数

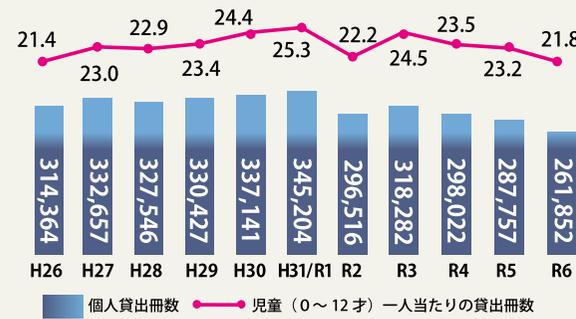


貸出者数



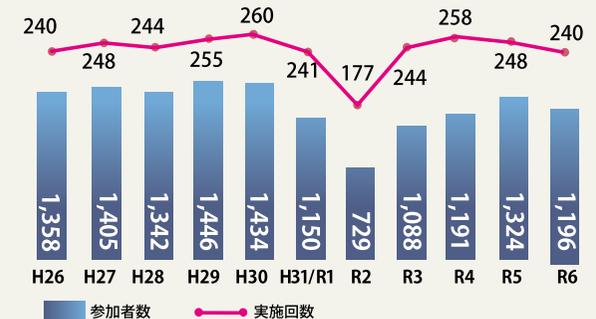
この20年の総来館者数は、なんと800万人!?

過去の来館者調査では、カウンターで本を貸出した人数の約2倍の方が来館されていることがわかっています。貸出をせず館内で過ごす方を含めると、約800万人もの方に来館いただいたことになります。



児童書の貸出冊数

子どもの人口は減少していますが、児童一人当たりの貸出冊数には大きな減少は見られません。これは図書館として児童サービスに力を入れるとともに、学校司書やおはなしボランティアと協力し、子どもへ本を手渡す取組を地道に続けている成果です。



おはなし会などの参加者数

各図書館では定期的に、おはなし会や工作会など多彩な子ども向け事業を実施しています。令和2年のコロナ禍で一旦数字の落ち込みは見られますが、その後子どもたちの参加は回復してきています。

図書館の自由に関する宣言

日本図書館協会 1979 改訂

(主文)

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。



職員の声

私たち図書館司書は
こんな図書館でありたいと
願っています

みんなの
笑顔を守りたい

苦しい時には励まされたり
モヤモヤしているときは
少し気持ちが軽くなったり
いつも一人ひとりの心の
よりどころとなるような図書館

困ったときに、頼りになる図書館

みんなにとっての自慢の場所だと
感じてもらえる図書館

平和の「種」がまった図書館

どんな人にも優しく
誰にとっても楽しい図書館

来館したすべての人に

「図書館に来てよかった!」と
笑顔で帰ってもらえるような図書館

知りたい
気持ちに
応えたい

これまでもこれからも
「知りたい・読みたい」
を支え続ける図書館

人と情報が集まり
つながることで
何かが生まれる図書館

一人一人の
暮らしと人生に
寄り添いたい

一人一人の人生の
そばにある図書館

子どもたちの
思い出に残る図書館

激しく移り変わる時代のなかでも

常に地域に根差し
地域の人々と歩む図書館

市民の「人生」に寄り添う図書館

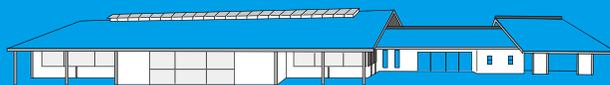
赤ちゃんから高齢者まで
みんながずっと通いたい図書館

本と人
何かいい出会いがある図書館

訪れるたびに
何か新しい発見や楽しさが見つかる
居心地のよい図書館

嬉しいとき、元気なときだけでなく
苦しいとき、悲しいとき
どうしていいかわからないとき
どんなときも
頼ってもいいんだと思える図書館

そんな図書館に近づくため
日々、来館してくださる一人一人と
向き合う時間を大切に
本の持つ力を信じ
たくさんの人に届けていきたいと願っています



本と人、人と人をつなぐ
東近江市立図書館 20年のあゆみ 2005-2025

編集・発行：東近江市立図書館

発行日：2026年3月

問合せ：東近江市立 八日市図書館

〒527-0028 滋賀県東近江市八日市金屋2丁目6-25

TEL 0748-24-1515 IP 050-5801-1515

